



海の中の動く花束

- ラップウニ -

今年は早々と梅雨に入り、雨がちな日が続くせいで時には涼しくも感じますが、水温は24度を越えていて、海の中の夏の準備は十分のようです。きっとこれから海に行くことも多くなることでしょう。海にはたくさんの危険な生き物がすんでいることは、みなさんも知っているとおりです。そこで、今回は、その危険な生き物の一つ、ラップウニを紹介しようと思います。

ウニの仲間は、これまでもアムスルだよりで紹介してきました。ナガウニ (No. 24) やシラヒゲウニ (No. 54) はとてもウニらしいウニですが、それらのトゲはそれほど鋭くないので、はだしでふんだり、ぎゅっと握ったりしないかぎり、ケガをすることはあまりないと思います。トゲが鋭いのはガンガゼの仲間 (No. 43) です。うっかり触っただけでも、スッと皮膚に刺さって折れてしまうので、十分に気をつけなければなりません。では、ラップウニはどうでしょうか。

ラップウニは、阿嘉島のまわりにはあ

まりたくさんはいませんが、小石や海藻や海底のゴミを体にまとって、ほかの動物に見つからないようにカムフラージュしている姿を時々見かけます (写真1)。

それらの小石などを取りのぞいてみると左上の写真のような姿をしていて、ちょっと見ただけでは、鋭いトゲは見あたりませ



ん。そのかわりに、たくさんのラップのような形をしたもので体がおおわれています。一つ一つの“ラップ”は、アサガオの花をもっと広げたような形で、それがたくさん集まっていて、まるで花束のようです。これがラップウニのトゲなのでしょうか。いえ、そうではありません。注意深く見てみると、ひしめくように咲いている“花”の間にとがったトゲを発見することができます (写真2)。

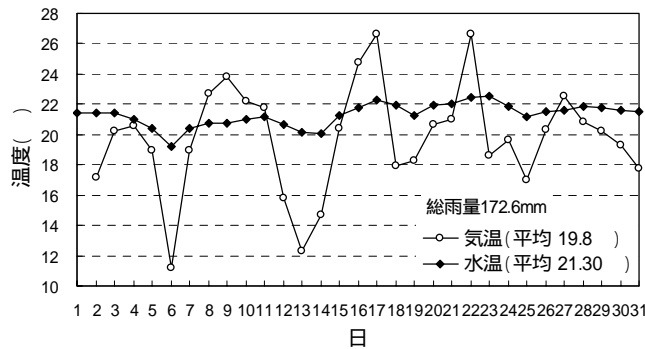
これが、ラップウニの本当の“^{とげ}棘”です。けれども、先端を見ても、それほど



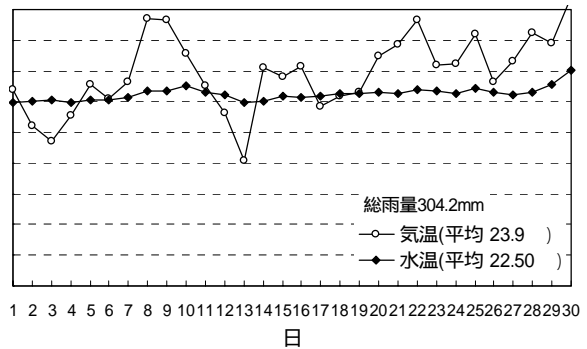
とがっていないので、ガンガゼのように刺さると思えません。実際のところ、そっとさわっているかぎり、このトゲが人に刺さることはまずなく、ラップウニが危険なのはこれが理由ではありません。では、どうしてラップウニは危険なのでしょう。

定点観測

2005年3月

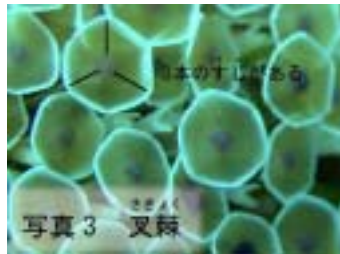


2005年4月



それは、かわいらしく咲いているたくさんの“花”が原因なのです。この“花”の本当の名前は「叉棘さききょく」といいます(写真3)。これは“枝わかれたトゲ”という意味ですから、トゲには違

ないのですが、これまで“トゲ”と呼んでいたもの(正式に「棘」という名前です)とは別の



ものです(実は、ほかのウニの仲間にも叉棘があるのですがとても小さくて目立ちません)。ラッパウニの叉棘をよく見てみると、3本のすじが見えます。そして、このすじには鋭くとがったかぎづめがついています。例えば、人がさわると、叉棘は根元と反対側に閉じ、つまり手をはさむように動いて、その時に問題のかぎづめが手をひっかいてしまいます。かぎづめはとても鋭いので、小さいながらもカミソリで切ったように切りキズができ、さらにやっかいなことに、この叉棘から出た毒がそのキズ口から入りこんでしまうのです。この毒は、けっこう強くて、人によっては気を失ってしまうほどだと言われていますから、泳いでいるときだったらおぼれてしまうかもしれません。

海の中でラッパウニを見ると、たくさんの小さな花を身にまとして、時には、その花をぱくぱくと開け閉めして、

とてもかわいらしく、不思議な感じがするので、ついさわりたいくなるのですが、やっぱり危険な生き物には違いないので、くれぐれもさわらないように気をつけてください。

阿嘉島の海より

平成17年4月17日(日)、大島哲哉君、利香さん(旧姓鈴木)の結婚式ならびに結婚披露宴が阿嘉離島総合センターで行われました。島内で行われた結婚式はおよそ40年ぶりだということです。もちろん、現在の総合センターでは初めてのこととなりました。

島の青年会や婦人会、ダイビング協会などが協力して準備した今回の結婚式には、親族の他、百数十名の島民が出席し、二人の門出を祝いました。

二人はこれまでマリンハウスシーサー阿嘉店のマリンスタッフとしてともに活躍してきましたが、昨年末の退職とともにこの阿嘉島で二人の生活を始めることを決意しました。

哲也君、利香さん、ご結婚おめでとうございます。これからも末永く明るく、健康な家庭を築いていって下さい。

